

水辺空間活用のための環境評価 [北九州市紫川]



## 水辺空間活用のための環境評価[北九州市小倉南区紫川下流部]

本稿は、2014年8月22日から24日の間に行ったSUPによる紫川の利用調査に基づき、紫川の利活用の可能性を評価したものである。

### ■利用調査の方法

初心者講習を行い、のべ15名の利用者に実際に紫川でSUPを体験してもらった。

### ■利用調査のスケジュール

<22日> 13:00より紫川の勝山橋付近左岸側でインフレーターブルSUPを膨らまし、水環境館横の階段からSUPを入水。水環境館前のオイルフェンスを超えて紫川流域を調査。結果、安全に初心者講習を行える場所は、水上ステージおよび人工砂浜のみと判断し、22日の初心者講習は水環境館前から砂浜まで2人の講師がそれぞれ1枚のSUPを曳航し、合計4枚を砂浜に持ち込み講習を行った。この日は午前中の降雨により水は濁り、水流も上側から感じられた。風と水流が逆になる場面では多少の波のブレイクも感じられたが、それほど大きくなく、初心者でも転覆することはなかった。当日は許可を得て勝山橋下のフェンスの中で、空気を残した状態のSUPを保管した。なお、特記事項として、水環境館前の階段を利用してSUPを乗り降りすることは、オイルフェンスで囲まれた排他的水域を利用することになるため、利用が制限されていることが後に明らかになった。また、この階段は初心者が乗り降りするためには向いていない。

<23日> 8:00より紫川の紫江's 前の水上ステージから乗り降りし、初心者講習を行った。水上ステージには上げ下げ可能なロアデッキがあり、ここからの乗り降りは初心者でも可能。当日は天候に恵まれ、透明度が高い水で、朝は無風で快適にSUPを行うことができた。

この日は、河口まで漕いだ。多少のうねりが海側から入ってくるが、勝山橋と鷗外橋の間でうねりは消える。河口には漁港があり、多少の配慮が必要なものと考えられるが、うねりが少ないのもこの漁港の水域である。初心者を河口エリアまで漕がせるのは、スキルを観て判断が必要だと思われる。

落水者一人。

<24日> 8:00より企画していたが、降雨と雷注意報が発令されていたため延期し、10:00より入水。この日は勝山公園前の艇庫からカヌーの体験会が行われており、この程度の降雨では通常カヌーでの利用は行われているものと推測される。降雨量が22日と比べて少なかったためか、この日の水も非常に透明度が高く、快適。また、朝は水位が高く、高水敷から30cm程度で水面だったため、ここから乗り降りしてみたが、護岸の角度が垂直でないために、乗り降り時の重心移動が大きく、初心者に向いていないことがわかった。



## [1]水辺活動範囲

SUP 等の水辺活動を楽しむことができるのは、下図の範囲。小倉城前から支流と分岐しているが、進入が不可能であるため、回遊はできず、現在は紫川の上流移動に限られる。船の往来は皆無に近く、ジェットスキーも利用制限されているため、手こぎのカヌーや SUP での利用に適している。



小倉城



井筒屋前



河口の工業地帯



小倉クラウンホテル前



貴船橋上流の堰



且過市場裏

[2]活動拠点の状況

必要な機能	場所	課題等
①SUP等のギアの保管場所	勝山橋下	◎屋根があり、鍵付き ◎小倉駅に最も近い拠点候補 ▲満潮時水浸しになることを要配慮
	勝山公園前ボート・カヌー併用艇庫	高水敷のレベルの堤防内にあり、高水時浸水するらしい。 空きスペースがあるか？
	周辺民地	空き物件等はある可能性が高いエリアは、勝山橋より下流側の区画が細かく分かれているエリアに限られ、その他は区画整理が進み、大型物件が多く、賃料も高そうだ。 ただし、大型物件自体も河川空間をうまく取り込んで運営しているとは言えず、魅力作りの一環で未利用空間を活かして協業できる可能性がある。
②着替え場所	勝山橋下	▲目隠し必要
	柴江's 内便所	▲一度の利用人数に限り有
	市役所内便所	◎コミュニティバイクのステーションに近い
	勝山公園前ボート・カヌー併用艇庫	？
	周辺民地	①に同じ
③参加者荷物保管場所	勝山橋下	◎屋根があり、鍵付き
	勝山公園前ボート・カヌー併用艇庫	？
④トイレ	柴江's	
	市役所	
⑤入水・上陸ポイント	水上ステージ	◎ステップがあり入水が初心者でも用意 ▲利用するには許可申請が必要
	市役所前砂場	◎どのような水位でも入水が用意 ▲貴重な生物の生息場所であるため遠慮したい
	河岸護岸	×紫川下流部はマイタウンマイリバー事業により、新しい堤防が整備され、すべての堤防に手すりがない。 しかしながら、一見入水が可能に見えても護岸が斜めで見た目よりも入水が難しい。特に初心者講習を行うことは避けたい。
	勝山公園前ボート・カヌー併用艇庫前	
⑥シャワー室		
⑦水場(SUP 洗浄の水確保)	柴江's 内便所	便所内の洗面台の水道のみであるため、大量の水を用意するには困難
	ボート・カヌー併用艇庫	？

①～⑦は近接しているほど利便性が高い。

⑤は数が多いほど、コース設定の多様性が向上し、休憩もできるためロングコースも楽しむことができる。

**■RW 北九州前**  
▲階段状ではあるが、SUP 等を運ぶのは困難



**■市役所前砂場**  
▲エントリーには適しているが、貴重な生物が生息しているので、利用は遠慮したい。砂の下はヘドロ。



**■勝山公園前ポート・カヌー併用艇庫**  
◎  
▲

**\* 参考**  
マイタウンの会の新井会長による、ローボートの入水。コンパネを護岸に敷いて、船が滑りやすいようにしている。




**■勝山橋下**  
◎屋根有、鍵付きで保管場所としてはよい  
▲満潮時の浸水対策が必要



**■柴江's 前**  
▲満潮時は水面まで30cm程度となり入水可だが、水位が下がると入水困難。



**■水環境館前**  
◎階段があるがスペースが小さく、SUP の上げ下ろしや乗り移りに支障がある。また、河川観察窓の前であり、利用は避けたい。



**\* 参考**  
まちなかの移動。アーケード商店街をリヤカーで行くのはかなり神経をつかう。



**■水上ステージ**  
◎ステップがあり、入水ポイントとして最適。





### [3]既存の活動団体等

- ・紫川マイタウンの会 <http://murasakigawa.jp/>
- ・カヌースクール九州 <http://www.canoe.co.jp/>
- ・紫川を愛する会 [http://www.jica.go.jp/kyushu/story/story\\_12.html](http://www.jica.go.jp/kyushu/story/story_12.html)
- ・タカミヤ <http://www.takamiyamariver.or.jp/>
- ・まちづくり応援団 <http://www.kokura-townnavi.com/kokura.phtml?main=kaisya.html>
- ・北九州家守舎 <http://www.yamorisha.com/>
- ・水環境館 <http://www.mizukankyokan.jp/mizu/main.html>

### [3]行政

- ★ 北九州市水環境課 <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kensetu/ken-mizukankyoku.html>
- ★ マイタウンマイリバー整備事業について  
[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/ken-to/file\\_0135.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/ken-to/file_0135.html)

### [4]総括

小倉南区をながれる紫川はマイタウンマイリバー整備事業によって河川の拡幅とまちづくりが一体的に整備された、全国でも珍しい河川である。バブル期の豪華な整備事業によって、高水敷は石張りで親水性が非常に高い。また、水上ステージがいくつか設置されていたり、カヌーの艇庫が堤防の河川側に設置されていたりと、かなりめずらしい。

行政の担当者にお聞きしたところ、河川と隔てるフェンスをつくらなかったことにかかなりこだわっていたそうで、そのことで水とまちが非常に近い。

ところが、SUPによる入水が楽かと言えば実はそうでもなかった。斜めの護岸からSUPを浮かべてそこに向かって飛び乗るスタイルは、まず初心者には無理で、上級者でも飛び乗る感覚である。残念ながら護岸が斜めだということが仇となっていた。

ただし、市庁舎前の人口砂浜は安全に入水できる。ここも注意が必要で、潮が引いているときは、ヘドロがある。また、貴重な生物のゆりかごになっているので、あまり頻度の高い利用は議論が必要かもしれない。

許可さえあれば、水上ステージの入水ステップを使うと安全に遊べる。ただし、日常遣いという点においては、フェンスのあげおろしや鍵の管理など問題もある。

コースのハイライトは北九州自慢の工場地帯がすぐ近くにあることだ。また、今回は調査しなかった神嶽川をちょっと行くと旦那市場があり、ここも見所に違いない。ただ、オイルフェンスで進入を阻んでいるので、安全にいけるかと言えばそうでもない。

日常遣いをするには、格好の場所。また旅行者がSUPを持ってきて遊ぶにしてもハードルが低く使いやすい。

小倉のみなさんのこれからの活動に期待します。